

科目名 植物資源保全学特論 (2単位)

担当者氏名 寺澤 和彦、中村 隆俊

◆学習・教育目標

現在、身近な自然が急速に失われつつあり、わが国においても生物多様性基本法が成立するなど、野生生物の保全への関心が高まっている。本講義では、湿原、海浜植生、森林群落などの自然環境を対象として、植物生態学、植生管理学、森林保全学などの視点から、保全に関する実例を交えて自然環境の保護と保全に関する知識を深める。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

光環境と植物の生態	陸域生態系	植生発達と養分動態	トレードオフ
攪乱と遷移	持続可能な森林管理	物質循環	生物多様性

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-5回	光環境と植物の生態、陸域の生態系、土壌・植生の発達と養分動態 (担当 中村隆俊)	自然環境の保全や再生には、まず対象となる生態系を十分に理解するプロセスが極めて重要である。従って植生の保護や保全には、植物生態学の基本的知識が不可欠である。本講義では、植物生態学の基礎について学習し、生態系を理解するためのアプローチについて、植物群落・植生保護の視点から考察する。	自然環境の保全や再生に向けた植物生態系の基本的知識と理解を深める。
6-15回	森林群落の組成と構造、遷移とその機構、森林の現存量と物質循環、森林と野生生物との相互関係、生物多様性保全と森林施業 (担当 寺澤和彦)	森林群落の構造・種組成等とギャップダイナミクスなど森林動態のメカニズムについての理解を深めるとともに、生態系における炭素・窒素・水などの循環、森林と野生生物との相互関係、生物多様性保全と森林施業について理解する。	森林と人との持続可能な関係の構築に向けた基礎知識として生物多様性保全や物質循環を考慮した森林施業に関する理解を深める。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）
書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等
書名／著者／発行所（発行年）

森林生態学 日本生態学会編 共立出版(2011)

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

出席とレポートで評価する。

◆その他受講上の注意事項

事前に指示。配布された論文や資料にあらかじめ目を通して内容を把握しておくこと。